

平成25年7月30日

豊岡市商工会

豊岡市商工会管内企業動向調査結果

(平成25年4月～6月期実績、7月～9月期見通し)

《1》 調査時点 平成25年6月10日

《2》 調査対象

調査依頼先

150企業

有効回答数

111企業 (回答率74.0%)

業種	企業数	城崎	竹野	日高	出石	但東	回答数
製造業	24	2	2	6	8	3	21
建設業	27	0	2	10	4	3	19
小売業	35	7	3	6	8	2	26
飲食業	20	5	1	2	5	1	14
宿泊業	23	7	3	6	0	0	16
サービス業	21	2	1	7	2	3	15
合計	150	23	12	37	27	12	111

《3》 調査項目

①売上高

②仕入単価

③採算性

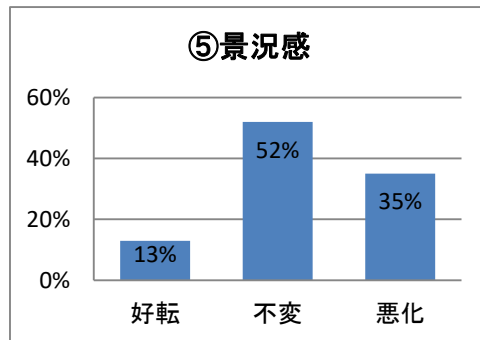
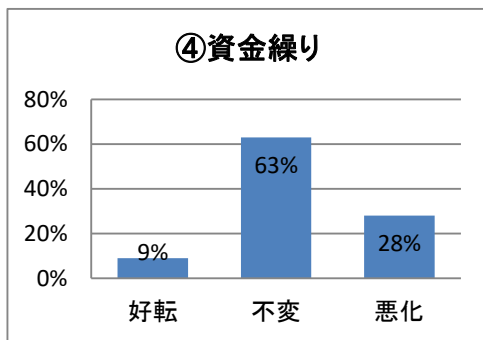
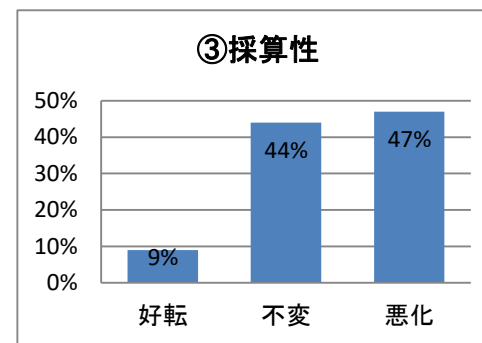
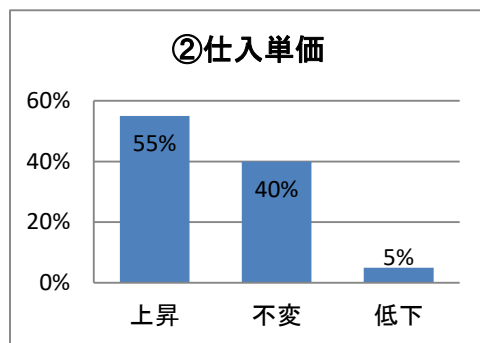
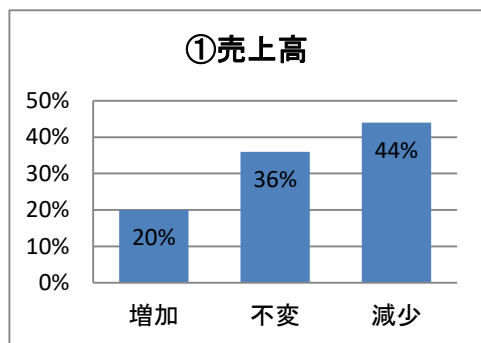
④資金繰り

⑤景況感

⑥直面している経営上の問題

【1】前年同期比

前年同期（平成24年4月～6月）と比べた今期（平成25年4月～6月）の状況



・売上高・採算性・資金繰り・景況感各項目について
 厳しい状況
 ・仕入単価は上昇

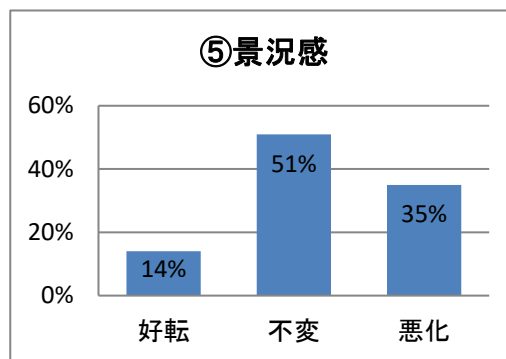
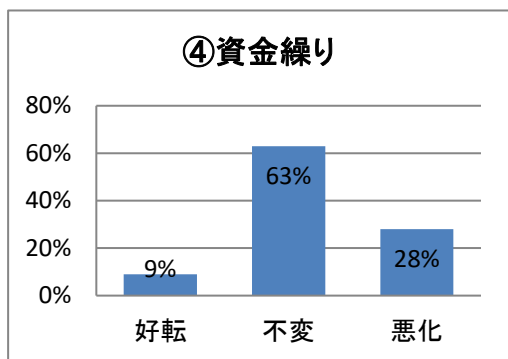
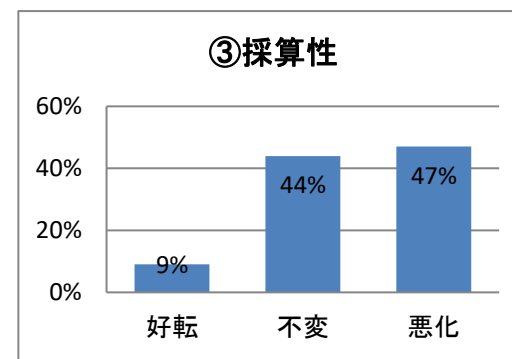
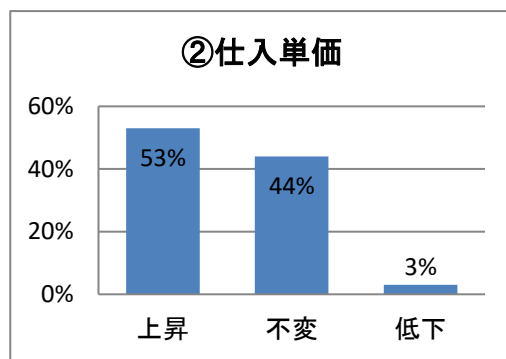
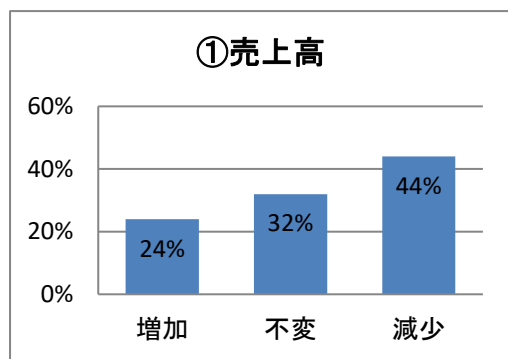
【全業種・業種別D I】

	全業種	製造業	建設業	小売業	飲食業	宿泊業	サービス業
売上高	▲24	▲45	21	▲38	8	▲37	▲43
仕入単価	50	71	78	46	53	32	14
採算性	▲38	▲63	▲15	▲36	▲29	▲47	▲36
資金繰り	▲19	▲33	▲6	▲8	▲15	▲40	▲14
景況感	▲22	▲38	10	▲31	▲8	▲44	▲22

(注) 売上D Iは「増加」企業割合－「減少」企業割合
 仕入単価D Iは「上昇」企業割合－「低下」企業割合
 採算性D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 資金繰りD Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 景況感D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合

【2】前期比

前期（平成25年1月～3月）と比べた今期（平成25年4月～6月）の状況



・売上高・採算性・資金繰り・景況感各項目について
 厳しい状況
 ・仕入単価は上昇

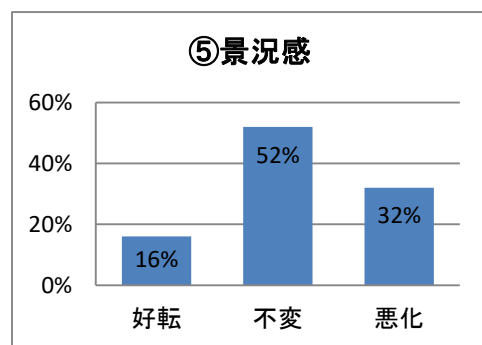
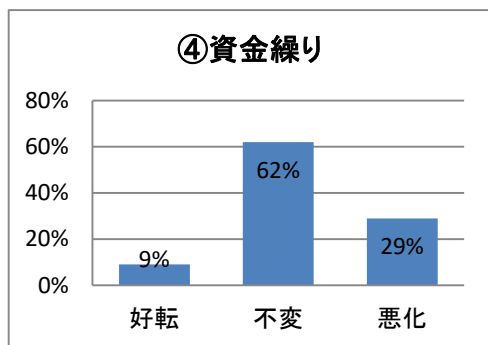
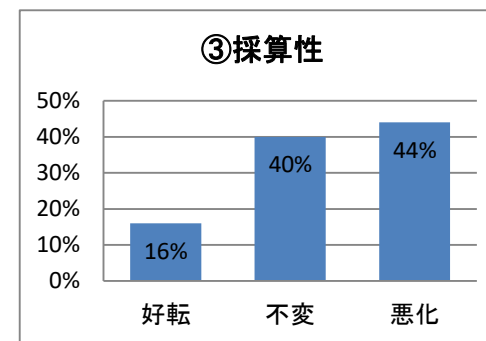
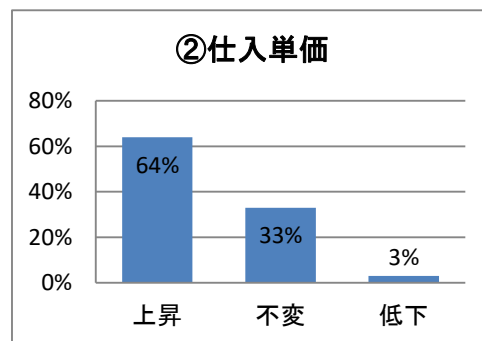
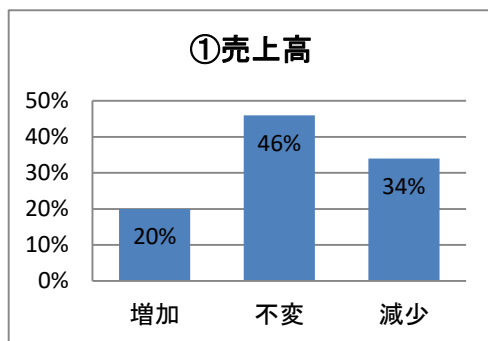
【全業種・業種別D I】

	全業種	製造業	建設業	小売業	飲食業	宿泊業	サービス業
売上高	▲20	▲29	11	▲31	8	▲32	▲36
仕入単価	50	62	79	52	50	44	7
採算性	▲38	▲55	▲15	▲38	▲29	▲49	▲43
資金繰り	▲19	▲29	▲6	▲12	▲15	▲37	▲14
景況感	▲21	▲34	15	▲26	▲15	▲44	▲22

(注) 売上D Iは「増加」企業割合－「減少」企業割合
 仕入単価D Iは「上昇」企業割合－「低下」企業割合
 採算性D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 資金繰りD Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 景況感D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合

【3】来期の見通し

今期（平成25年4月～6月）と比べた来期（平成25年7月～9月）の見通し



・売上高・採算性・資金繰り・景況感各項目について
 厳しい状況
 ・仕入単価は上昇

【全業種・業種別D I】

	全業種	製造業	建設業	小売業	飲食業	宿泊業	サービス業
売上高	▲14	▲19	0	▲12	16	▲27	▲36
仕入単価	61	81	63	61	57	75	22
採算性	▲28	▲45	0	▲31	▲15	▲57	▲24
資金繰り	▲20	▲23	▲15	0	▲15	▲50	▲21
景況感	▲16	▲34	16	▲26	0	▲24	▲15

(注) 売上D Iは「増加」企業割合－「減少」企業割合
 仕入単価D Iは「上昇」企業割合－「低下」企業割合
 採算性D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 資金繰りD Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合
 景況感D Iは「好転」企業割合－「悪化」企業割合

【4】直面している経営上の問題点について

【全業種】

直面している経営上の問題点	件数	比率 (%)
消費者（製品）ニーズ変化への対応	40	37
仕入単価（原材料）の上昇	31	28
販売・受注単価の低下	20	18
大手企業（大型店）進出、インターネット普及による販売競争の激化	15	14
事業資金の借入難	3	3
合計	109	100

【業種別】

直面している経営上の問題点（件数）	製造業	建設業	小売業	飲食業	宿泊業	サービス業
消費者（製品）ニーズ変化への対応	3	6	6	4	10	11
仕入単価（原材料）の上昇	9	6	6	6	3	1
販売・受注単価の低下	5	6	5	1	2	1
大手企業（大型店）進出、インターネット普及による販売競争の激化	3	0	9	1	0	1
事業資金の借入難	1	0	0	1	1	0
合計	21	18	26	13	16	14

【5】自由コメント

1	当事業所のみならず、地域そのものが不況に陥っており、いい話題もない。
2	今は辛抱して、夏休みに期待せざるを得ない状況である。
3	大企業だけの保護政策だけでなく、中小企業いかの業者に対しての保護政策の実施を望む。
4	城崎を訪れる客層が、若年化して高額商品を買わなくなってきた。また、全体的に一人あたりの購入単価も下がっている。
5	売上は上がっても、仕入高も上がり利益は、伸びず苦しいです。
6	宿泊の価格破壊もあり小さい宿は大変です。
7	過剰なサービスもお客さんは、当たり前にも思われているので、私のところの宿の個性でロコミで質のよいお客様に来て頂けるように今変えているところです。
8	世界規模での原料価格の変革が大きく、繊維業界もその中で大きなウェイトを占めています。一昨年の綿花の高騰に続き今夏以降羽毛の原料が上がるのが必至になっている中、いかに量販店との差別化を図ることができるかということが課題となってくる。その情報筋では、やはり中国経済が大きく関わっているとのこと（わが業界でも）。
9	デフレに対する物的・習慣的・文化的・価値観の変化のスピードに対応する体力がない。アベノミクス「景気が好転すれば」という楽観視も僻地では、人口減の勢いにかき消されている。オンリーワン、ここでなければと言う何かを作りだすことしか生き残れない。
10	アベノミクス効果は全然感じられず、受注計画の立案ができない。
11	受注単価の低下が少しは、緩和されそう（希望的観測）。
12	設問内容が弊社の業務内容と合致しないところもあり答えにくいところもあります。
13	西日本流通の大手豆腐メーカーが進出しており、卸し単価および小売価格の低下。
14	輸入大豆の高騰、原油価格の高騰による石油由来の包装資材の高騰。
15	ガソリン価格の高騰による配送コストの上昇が重くのしかかって来ている。また、卸し先のスーパーも価格競争に陥っており簡単には卸し価格の値上げ交渉には応じて頂けないのが現状。